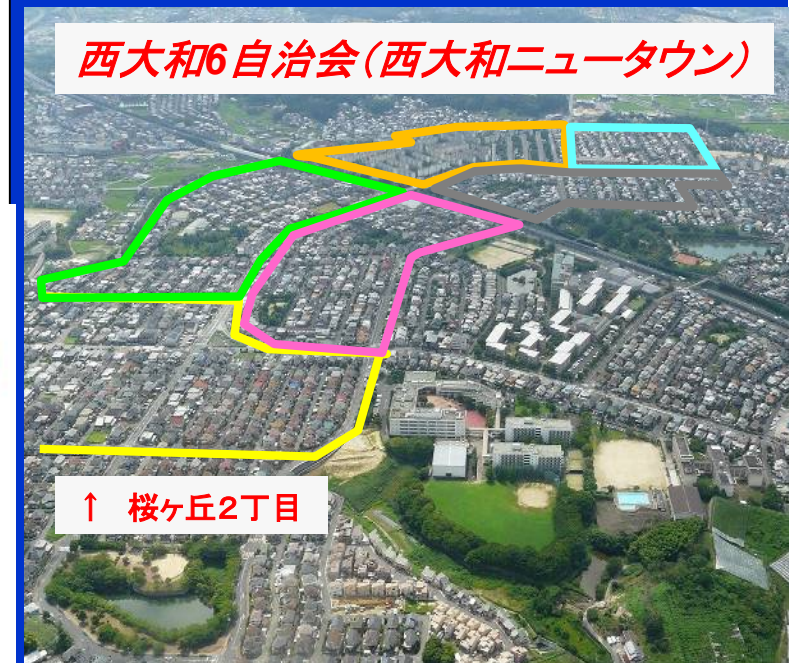


「子どもサバイバルキャンプ」 「災害時要援護者避難訓練」 の連携による 地域防災力向上作戦



西大和6自治会連絡会地域防災力向上作戦

- 1) 「子ども」を地域につなぐために、「子どもサバイバルキャンプ」を行ってきた
- 2) 昨今、地域の「災害時要援護者」への支援の必要性をひしひしと感じてきた
- 3) 「子どもサバイバルキャンプ(6回目)」+
「災害時要援護者避難訓練」(初めて)を連携実施
→大人から 子どもまで訓練に参加することで
地域防災力の向上を図る

4) 地域内の各種団体の参画を得る

自治会、子ども会
上牧第2小学校
消防署
消防団
民生・児童委員、
シルバークラブ小地域ネットワーク
上牧町
教育委員会
社会福祉協議会等

5) 地域外からアドバイスを得る

チャレンジプランに応募
奈良県
専門家のアドバイス



訓練や打合せに、地域内外の多くの団体が参加



上牧町長も参加!

子どもサバイバルキャンプ

実施日 8月21日(土)～22日(日)

目的:地域の将来の防災の担い手に防災への関心を高め
てもらう。

対象者:地域の小学生

効果:キャンプの実施を通して、地域の様々な主体が参画
(自治会、自主防、学校、PTA等)

プログラムの背景:

- ①大地震発生後、ライフラインが通じないという想定
- ②テントで野営して、模擬避難生活を体験する
- ③ゲームなどを通じて楽しく防災の知識を学ぶ
- ④資機材を使って体験する
- ⑤子どもへの指導を通して、大人の避難所運営訓練にもなる

参加者のアンケート結果から

- 子どもたちが楽しみながら一生懸命に防災知識を得て、協力し合って過ごせた
- 全員元気で無事終了できた
- ランタンが幻想的で周辺住民にも関心をもってもらった
- 若者、社協の研修生(大学生)がゲームの手伝いをしてくれた



災害時要援護者避難訓練

実施日 8月21日(土)

目的:参加者が要援護者役に扮し、高齢者疑似体験装置を装着し、実行

体制:大人の部は組織別訓練を実施

(3班:自治会役員、シルバークラブ、民生・児童委員)

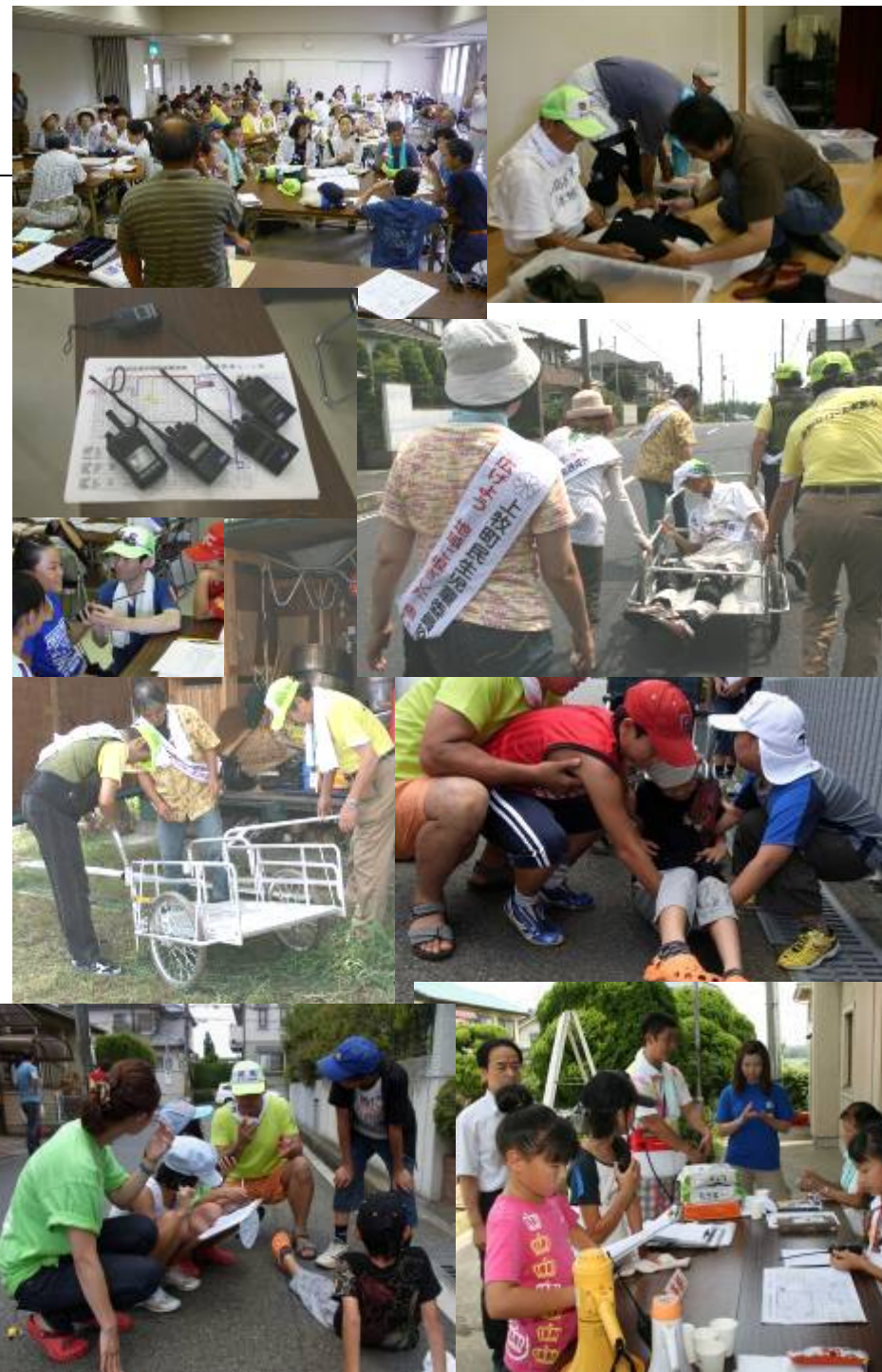
子どもの部は3班で訓練を実施

工夫:

- 要援護者の擬装装具を使った
- 8台のトランシーバで同時連絡を実施他
- 本部・見回り班・情報班・救援班・介護班・救急班をつかった
- 大人訓練、子ども訓練を連続して実施

参加者のアンケート結果から

- 関係各機関の支援を得られた(上牧町役場、上牧町教育委員会の支援(後援)(県安全安心まちづくり推進課)(社協、民生・児童委員、シルバークラブ、子ども会の協力)
- 地域住民が大勢参加し、地震時の対応についての自治意識をもつことができた
- ケガ人を車椅子に乗せるとき、どのように注意したらよいかを大人がわかりやすく教えてくれた(子どもの意見)
- 自分で6年生を運べたことがよかった(子どもの意見)
- トランシーバーを使えたことがよかった(子どもの意見)



中間発表会の指摘を受けて・・・

実行委員から

- 子どもサバイバルキャンプによって地域につながり、めったに子どもを、どのように要援護者訓練に活用していくのかを考えて欲しい
- 要援護者安否確認台帳および支援者（助ける人）登録台帳の作成をどのようにすればよいのか工夫して実施してほしい

そこで・・・

①要援護者（支援者）台帳を作成

②台帳に基づく支援者による訓練を企画（帳票「要援護者発見状況情報記録」を作成）

→ 要援護者作成のために、桜ヶ丘2丁目自治会の全戸を戸別訪問

9月～11月に約400世帯（約1,200人）を戸別訪問し、

70名の要援護者、約230名の支援者（助ける人）を登録

→ 支援者をベースに、第2回・要援護者避難訓練を実施

5班のうち、1班は子ども班（小学生）、帳票「要援護者発見状況情報記録」を使用

◇1月9日（日） 事前説明会

◇1月16日（日） 第2回・要援護者避難訓練
（大人の部・子どもの部）



中間報告会での発表

安否確認台帳・支援者確認台帳の作成

目的：災害時に「地域の人的被害を最小限に」したい

対象者：1人では一時避難所へ行けない方

ご家族に一時避難所へ誘導してくれる人がいない方

お年寄りで身体が不自由な方、障害者の方、幼児(0歳～3歳)

工夫したこと

- 個人情報への配慮、記入を最小限にする様式の作成
- 最初に、回覧板で広報した後、自治会長とブロック委員が全戸を戸別訪問（9月～11月実施）

良かったこと

- 戸別訪問で主旨を丁寧に説明することで個人情報提供やその他の不安を解消
- 助け合い・お互い様で、支援者も同時に募集
- 約1,200名の住民のうち約70名の要援護者と、約230名の支援者を登録

発掘できた支援者230名

＜専門職＞医師、看護師、消防士、建築士、
電気工事士、重機操作、パソコン操作、
＜役割＞子守り、炊き出し、買い物、話し相手、
安否確認、お手伝い、歌・手品など

→自分達のまちは自分達で守ろうという
意識が真に強まった



秘 記入例 上牧町板ヶ丘2丁目自治会
災害時要援護者安否確認名簿登録申請書兼登録台帳

名簿登録者		2010年07月31日現在	
ふりがな	さくらがおの 忍ろう	性別	男
氏名	板ヶ丘 太郎	ふりがな	さくらがおの はなこ
性別	男	性別	女
生年月日(西暦)	生年月日(西暦)	生年月日(西暦)	生年月日(西暦)
明・大(男) 15年生れ(1940) 70才	明・大(男) 18年生れ(1943) 67才	明・大(女) 15年生れ(1945) 65才	明・大(女) 18年生れ(1948) 62才
電 話	0745-12-3456	電 話	0745-12-3456
携帯電話	090-0000-0000	携帯電話	なし
住 所	〒639-0202 上牧町板ヶ丘2丁目1番30号		

【特記事項】※心身の状態等を含め、保護を受ける場合に配慮してほしい事項などを記入して下さい。
※不自由で、すぐに動くことも出来ず、要援護者マークを付けています。
※世帯、隣りに連絡がとれず不詳です。

氏名	性別と年齢	年齢	氏名	性別と年齢	年齢
板ヶ丘 一郎	男	40	板ヶ丘 悠二	男	11
板ヶ丘 静子	女	37	板ヶ丘 悠三	男	9
			板ヶ丘 悠四	男	8

緊急時の連絡先

ふりがな	さくらがおの じろう	平仮名	ふりがな	片岡台 秋子	平仮名
氏名	板ヶ丘 二郎	姓	氏名	片岡台 秋子	姓
住 所	〒000-0000 大宮市中央区中ノ島0丁目0番00号		住 所	〒639-0000 奈良県北葛城郡上牧町板ヶ丘0丁目0番00号	
電 話	06-7777-4321	電 話	0745-88-1234		
携帯電話	090-0000-0000	携帯電話	090-0000-0000		

※あなたとの関係(○で調べて下さい) ※あなたとの関係(○で調べて下さい)
家族(親戚) 友人・ヘルパー等・その他() 家族・親戚(近) ヘルパー等・その他()

板ヶ丘2丁目自治会長様
私は災害時に地域の安否確認を受けたいため、上記の内容を台帳に登録することに同意します。
平成 22 年 7 月 31 日
本人又は代理人 住 所 〒639-0202 奈良県北葛城郡上牧町板ヶ丘2丁目1番30号
電 話 (0745) 12-3456 携帯電話 090-0000-0000
氏名 板ヶ丘 太郎 () (代理人の場合/続柄)

この台帳に記載された情報については、板ヶ丘2丁目自治会長が管理します。また、この台帳に記載された情報は、災害時の要援護者支援活動のみに利用するものであり、他の目的には利用しません。

第2回・要援護者避難訓練(大人の部)

事前説明会(1月9日)の内容

- ・支援者の役割を説明
- ・訓練の流れ、各班の役割、機器操作、三角巾の使い方の説明

避難訓練(1月16日)の内容

- ・要援護者の安否確認、応急手当、救護所への搬送、本部運営、簡易トイレ組み立て
- ・避難所運営訓練(HUG)等

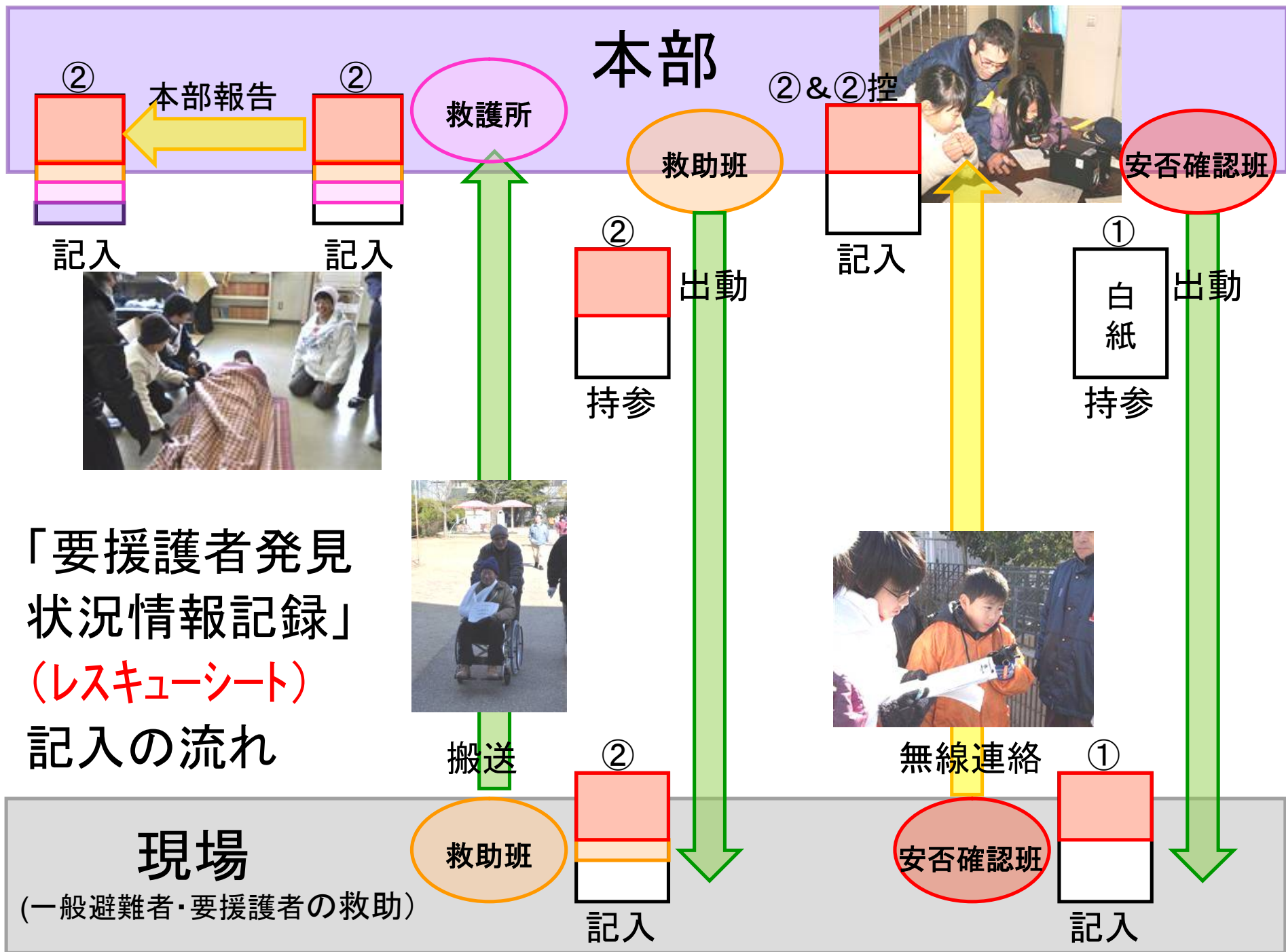
工夫した点

- ・地震の被害想定をイメージした実践的な訓練
- ・ブラインド方式を実施(要援護者の居場所等を状況付与せず、支援者に搜索してもらう)
- ・避難所運営訓練(HUG)を取り入れ
- ・障害物(倒れた電柱)の設定(地図で状況付与)
- ・災害時のトイレの重要性を説明(簡易トイレ組立訓練)

良かった点

- ・支援者登録の230名に訓練参加を呼びかけ、85名が訓練に参加(登録直後の呼びかけが◎)
- ・支援者である医師・看護師による救護班設置(要援護者発見状況情報記録紙によりトリアージ)
- ・「三角巾での応急手当」「無線の取り扱い」実践的な活動の習得
- ・実際の避難所運営を地図を使って訓練。通路確保等の気づき





夏に情報伝達訓練(無線機)を実施するなかで、正確に簡潔に状況を伝えることの難しさを知った→**共通帳票の作成につながった**

救助対象者が室内・室外にいることによって救助方法と手間が異なる

救助隊が必要とする情報

要援護者発見状況情報記録 上牧町桜ヶ丘2丁目自治会

◆発見状況

日 時 分 通報者() 本部情報担当者()

氏名	年齢 歳	性別 男 女	発見場所(住所) 桜2-
要援護者の位置 屋外 室内 1F 室内 2F 不明		要援護者登録 あり なし 不明	
意識レベル(反応) あり なし 不明		呼吸 あり なし 不明	
外傷 あり なし		外傷状態	
歩行 可 不可 不明			
その他の情報			

◆必要機材

担架 車椅子 リヤカー 毛布 三角巾 飲料水

ジャッキ バール チェーンソー その他()

救助・搬送必要人員 名 不明

◆一時避難所着 日 時 分

◆救出時の特記事項 記入者名()

◆医師・看護師所見 医師・看護師 氏名()

● 待機群
 ● 準緊急治療群
 ● 緊急治療群
 ● 死亡群

◆処置

避難所収容 救護所待機 救急搬送 搬送先()

その他

登録があれば身体等の状況を知ることができる

医師派遣・緊急性の判断をする

安否確認班が現場で①に記入
→無線連絡により情報班が聞き取って②
および②控に記入

救助班が記入
救護所が記入

医師・看護師の所見と処置を書き込む

本部が記入

第2回・要援護者避難訓練(子どもの部)

訓練の内容

- ・要援護者の安否確認、被害状況の把握、
救護所への搬送、本部運営等

工夫した点

- ・子どもサバイバルキャンプの一連と
位置付け
- ・大人と同じメニューで実施
- ・子どもの支援者に教員、保護者等
- ・要援護者発見状況情報記録
(トリアージ付き)

良かった点

- ・無線機の使用法もよくなった
(無線が集中し輻輳が起きた点も理解)
- ・大人と違う目線で活動
- ・ブラインド方式にも対応できた



安否確認班による記入

要援護者発見状況情報記録 上牧町桜ヶ丘2丁目自治会

◆発見状況
16日10時20分 通報者(山崎達也) 本部情報担当者()

氏名	松本	年齢	72歳	性別	男	発見場所(住所)	桜2-2-20
要援護者の位置				要援護者登録			
屋外	室内1F	室内2F	不明	あり	なし	不明	
意識レベル(反応)				呼吸			
あり	なし	不明	あり	なし	不明	可	不可
外傷		外傷状態					
あり	なし	右足底切創(出血あり)					
その他の情報							

◆必要機材
担架 車椅子 リヤカー 毛布 三角巾 飲料水

◆一時避難所着 日 時 分

◆救出時の特記事項 記入者名 ()

◆医師・看護師所見 医師・看護師 氏名 ()

● 待機群
◆ 処置
避難所収容 救護所
その他



訓練における実際の記入例

本部情報班と救助班による記入

要援護者発見状況情報記録 上牧町桜ヶ丘2丁目自治会

◆発見状況
16日10時19分 通報者(松2) 本部情報担当者()

氏名	松	年齢	72歳	性別	男	発見場所(住所)	桜2-2-20
要援護者の位置				要援護者登録			
屋外	室内1F	室内2F	不明	あり	なし	不明	
意識レベル(反応)				呼吸			
あり	なし	不明	あり	なし	不明	可	不可
外傷		外傷状態					
あり	なし	右足切創、出血あり					
その他の情報							

◆必要機材
担架 車椅子 リヤカー 毛布 三角巾 飲料水

◆一時避難所着 日 10時 分

◆救出時の特記事項 記入者名 ()

◆医師・看護師所見 医師・看護師 氏名 ()

● 待機群
◆ 処置
避難所収容 救護所
その他



救護所(訓練参加医師)による記入

要援護者発見状況情報記録 上牧町桜ヶ丘2丁目自治会

◆発見状況
16日10時19分 通報者(松2) 本部情報担当者()

氏名	松	年齢	72歳	性別	男	発見場所(住所)	桜2-2-20
要援護者の位置				要援護者登録			
屋外	室内1F	室内2F	不明	あり	なし	不明	
意識レベル(反応)				呼吸			
あり	なし	不明	あり	なし	不明	可	不可
外傷		外傷状態					
あり	なし	右足切創、出血あり					
その他の情報							

◆必要機材
担架 車椅子 リヤカー 毛布 三角巾 飲料水

◆一時避難所着 日 10時 分

◆救出時の特記事項 記入者名 ()

◆医師・看護師所見 医師・看護師 氏名 ()

● 待機群
● 準緊急治療群
● 緊急治療群
● 死亡群

◆ 処置
避難所収容 救護所待機 救急搬送 搬送先()
その他

「子ども」と「高齢者」を結ぶ訓練の実施による 地域防災力向上作戦の成果！

①6年間継続した「子どもサバイバルキャンプ」

→将来の地域の担い手が着実に育っている

(参加者は中学・高校・大学生になり、支援者側に)



②「災害時要援護者」の支援者台帳作成・訓練

→町内の「助け合い・お互い様」という自覚が強まった

(支援者を230名発掘し、第2回要援護者訓練の支援者に)



③ 訓練を通して、地域内外の関係機関の取り組みを把握

→今後の防災・減災のため協働・ネットワーク化の基礎となった

(日頃から顔の見える関係構築へ)



④ 地域から、行政側へ活動・働きかけを実施

→町長、教育委員会、役場幹部職員等の協働意識の高揚

(町内の他地域への波及効果)